

アントレプレナーとベンチャーキャピタリストのための

「ベンチャーファイナンス実践塾」 第 期塾生募集

運営委員長：忽那 憲治（神戸大学大学院経営学研究科教授）

<http://www.b.kobe-u.ac.jp/~kutsuna/>

主 催 現代経営学研究所（RIAM）

後 援 神戸大学大学院経営学研究科

現代経営学研究所からご挨拶

現代経営学研究所（Research Institute of Advanced Management: RIAM）は、産学連携を通じた経営教育・研究の促進を基本理念とし、産業界と学界を架橋するシステムの構築を通じて、先端的・実践的経営学の教育・研究を促進する活動を行っております。

現代はまさしく産業界と学界が連携していくことが重要であるといえます。神戸大学大学院経営学研究科は、このような社会的要請に応えるため「現代経営学研究学会」を 1993 年に設立しました。さらに 2004 年には、その活動及び組織の拡充を目指し、NPO 法人現代経営学研究所に改組しました。現代経営学研究学会の活動を拡張させながら、産業界と学界の情報の相互受発信と経営教育・研究に関わる知の移転・共有・蓄積のための基盤システムの構築に取り組んでまいります。

理事長	正司 健一（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
常務理事	平野 光俊（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	鈴木 一水（神戸大学大学院経営学研究科准教授）
理事	加登 豊（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	高嶋 克義（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	三品 和広（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	原 拓志（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	三矢 裕（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	音川 和久（神戸大学大学院経営学研究科准教授）
監事	櫻井 久勝（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
	中野 常男（神戸大学大学院経営学研究科 教授）

1.ベンチャーファイナンス実践塾の開催趣旨

ベンチャー企業のアントレプレナーは、不確実性の高い事業環境で高度な経営的意思決定を行うために、ビジネスプランニングとそのためのファイナンスに関わる知識の習得が不可欠です。もちろん、こうした知識は独立系ベンチャー企業のアントレプレナーのみに求められるものではなく、企業のなかで新規事業を創造するコーポレート・アントレプレナーや、大学発ベンチャーを経営するアカデミック・アントレプレナーにとっても不可欠なものです。いくら素晴らしい事業アイデアや技術を持っていても、ファイナンスの知識なくしては、成長のための資金を調達することも、株式公開に向けた有効な資本政策を考えることもできません。ベンチャー企業に資金を供給するベンチャーキャピタリストにおいても、投資先企業に対して付加価値の高いサービスを提供するためには、ビジネスプランニングやファイナンスに関する理論に基づいた行動が重要です。

しかし、こうしたファイナンスに関する知識を、多忙を極めるアントレプレナーやベンチャーキャピタリストが、日常の業務の中で自ら時間をねん出し学習することは容易ではありません。ベンチャーファイナンス実践塾では、株式公開を目指している成長期にあるベンチャー企業のアントレプレナーと（可能であれば、御社において企画・財務を担当している役員（CFO）と一緒に参加することを推奨します）若手中堅クラスのベンチャーキャピタリストを対象に、ビジネスプランニングから、ベンチャーキャピタルの投資を経てIPOに至るまでの一連のプロセスにおけるファイナンスの基礎知識を習得してもらうことを第1の目的としています。

しかし、ベンチャーファイナンス実践塾は、このような基礎知識の習得にとどまるものではありません。習得した基礎知識を元にして、グループ討議と全体討議を通じて、指定した実践的課題に関して意見交換を行います。こうした討議を通じて、アントレプレナーとベンチャーキャピタリスト両者にとって好ましいファイナンスの在り方は何かについて分析・研究することが第2の目的です。

第7回目の最後の講義では、わが国のベンチャーファイナンスをより円滑に実施するために改善すべき課題は何かについて、参加者全員で分析・研究の成果を総括したいと思います。

また、第6回目と第7回目の講義では、アントレプレナーにビジネスプランを発表してもらい、ベンチャーキャピタルからの実際の資金調達につながる可能性を追求します。こうした討議を通じて、アントレプレナーにとっては、自社のビジネスモデルを練り直すための貴重な機会となるでしょう。ベンチャーキャピタリストにとっては、ファイナンスの理論を基礎にした、ベンチャー企業に対するアドバイス能力を高めるための訓練の機会となるでしょう。

また、参加するアントレプレナー、CFO、ベンチャーキャピタリストにおいて、現状の知識レベルには差があるかもしれません。しかし、初級、中級、上級レベルのテキストとして何を読めばよいのか、どのようなプロセスを経てレベルアップを図れば自らの知識の向上が達成できるのかについて、よくわからず困っている人も多いかもしれません。ベンチャーファイナンス実践塾では、参加者のレベルに応じて、「どのようなテキストを使って、どのように勉強すればよいのか」という疑問に対しても、丁寧に指導していきます。

最後に、ベンチャーファイナンスの実践においては、アントレプレナー間、ベンチャーキャピ

タリスト間だけではなく、アントレプレナーとベンチャーキャピタリスト間でネットワークを構築しておくことが、将来の事業展開において貴重な資産になります。アントレプレナーとベンチャーキャピタリストの人的ネットワークの形成、お互いが高い目標に向かって高めあうことのできるコミュニティを構築することも、ベンチャーファイナンス実践塾の大きな目的です。

2. ベンチャーファイナンス実践塾の対象

ベンチャーファイナンス実践塾は、下記に示すようなアントレプレナーとベンチャーキャピタリストを対象としています。

(1) アントレプレナー（御社のCFOを含む）

将来急成長を達成し、株式公開を実現したいと思っているが、ファイナンスの知識が不足していると感じている方。

企業を成長させるためにベンチャーキャピタルから資金を調達したいと思っているが、どのような点に注意して資金を調達すればよいのかよくわからない方。

自社のビジネスモデルが成長可能なものなのかをチェックしたいが、そのためにどのような点に注意してチェックすればよいのかよくわからない方。

大企業のコーポレートベンチャーとしてベンチャー企業の経営を担当することになったが、ファイナンスの知識が不足していると感じている方。

大学発ベンチャーとして企業を立ち上げたが、技術のことはわかっても、ファイナンスの知識が不足していると感じている方。

独自の方針でこれまで成長を模索してきたが、他のアントレプレナーやベンチャーキャピタリストから幅広く意見を聞いて、ビジネスモデルをもう一度再検討したいと感じている方。

今後の自社の成長戦略を考えたとき、ファイナンスの基礎理論を習得した財務担当役員を育成する必要があると感じている方。

(2) ベンチャーキャピタリスト

大学を卒業して大手ベンチャーキャピタルに就職したが、ファイナンスについての理論的な知識が十分に習得できていないと感じている方。

銀行本体で長らく融資業務に携わってきたが、子会社の銀行系ベンチャーキャピタルに勤務するようになったものの、ファイナンスの理論的な知識が不足していると感じている方。

大手製造業で長らく営業等の業務に携わってきたが、コーポレートベンチャーキャピタル部門に勤務するようになったものの、ファイナンスの理論的な知識が不足していると感じている方。

独自の方針でこれまで投資を実施してきたが、アントレプレナーや他のベンチャーキャピタリストから幅広く意見を聞いて、自らの投資の在り方をもう一度再検討したいと感じている方。

今後の自社の投資戦略を考えたとき、ファイナンスの基礎理論を習得したベンチャーキャピタリストを育成する必要があると感じている方。

3.ベンチャーファイナンス実践塾のプログラム

ベンチャーファイナンスの先進国であるアメリカでは、アントレプレナーとベンチャーキャピタリストがともに、ビジネススクールでアントレプレナーシップに関する幅広い知識を習得した後に、実践で経験を積み活躍しています。多くのアントレプレナーやベンチャーキャピタリストがMBAホルダーであることから、アメリカの進んだ実態を伺うことができます。一方、わが国の場合は、こうしたアントレプレナーシップに関連する基礎知識を大学のMBAで習得したうえで、実践で活躍している人はむしろ少数派であるといえます。

とはいえ、2年近くの期間も実践を離れてMBAで学習することは、多忙であるアントレプレナーやベンチャーキャピタリストにとっては、現実問題としてとても難しいといえます。ベンチャーファイナンス実践塾では、MBAのアントレプレナーファイナンスの講義や演習で提供されている内容を、3カ月程度の短期間で習得できるように、基礎知識の習得（個別講義）と、実践へのフィードバックが可能となるように参加メンバー間での意見交換（グループ討議と全体討議）を組み合わせて、プログラムを設計しています。

講義では、エクセルを使いますので、ソフトウェアがインストールされたノートパソコンを持参して参加して下さい。

個別講義

第1回 ビジネスプランニングの基礎

優れたビジネスプランとはどのようなものか。

第2回 ビジネスプランニングのリスク分析

ビジネスプランのリスクをどのように分析すればよいのか。

シミュレーションの技術を使って、どのようにリスク分析を実践すればよいのか。

第3回 ベンチャーキャピタル投資とバリュエーション

アントレプレナーは資金を一度に調達した方がよいのか、数回に分けて調達した方がよいのか。

ベンチャーキャピタリストはどのような点に注目して投資決定を行うのか。

ベンチャー企業のバリュエーションを行う方法にはどのようなものがあるのか。

投資を行う前の価値評価（プレマネーバリュエーション）はなぜ重要なのか。

第4回 ディールストラクチャー

ベンチャーキャピタル業界において用いられる投資条項にはどのようなものがあり、それぞれどのような意味があるのか。

ベンチャーキャピタルとの投資契約において、アントレプレナーは何に注意をすればよいのか。

ベンチャーキャピタリストとアントレプレナー両者にとって好ましい投資契約にするためには、どのような点をお互い考慮する必要があるのか。

第5回 新規株式公開（IPO）の基礎

新規株式公開のコストはどの程度なのか。

新規公開企業の公開価格は、どのようなプロセスを経て決定されるのか。

新規株式公開にあたって、アントレプレナーとベンチャーキャピタリストはどのような点に配慮しておく必要があるのか。

第6回 ベンチャー企業のビジネスプランのプレゼンテーション1

アントレプレナーが自社のビジネスプランを発表し、全体で意見交換する。

第7回 ベンチャー企業のビジネスプランのプレゼンテーション2

アントレプレナーが自社のビジネスプランを発表し、全体で意見交換する。

総括

【参考図書】

リチャード・L・スミス、ジャネット・K・スミス著（山本一彦総監訳、岸本光永、忽那憲治監訳）

『アントレプレナーファイナンス』中央経済社、2004年。

忽那憲治、長谷川博和、山本一彦編著『ベンチャーキャピタルハンドブック』中央経済社、2006年。

忽那憲治『IPO市場の価格形成』中央経済社、2008年。

グループ討議

アントレプレナー2名とベンチャーキャピタリスト2名の4名程度で1グループを編成し、個別講義で習得した基礎知識を元にして、講師が設定したテーマについて分析・意見交換を行います。議論するテーマについては、講師が当日設定します。

グループは、第1回から第5回までの5回の個別講義ごとに、別のメンバーで行います。

全体討議

グループ討議を受けて、全体討議を行います。

4. スケジュールおよび人数

時期：2009年1月スタート4月修了（1カ月に2回程度の開催）

場所：大阪、神戸、東京

応募状況により、開催場所を検討

回数：全7日（土曜日開講・1日4時間 13:00-17:00）

13:00-13:15 講義テーマの説明

13:15-14:15 個別講義1

14:15-14:30 休憩

14:30-15:30 個別講義 2
15:30-16:00 グループ討議
16:00-16:15 休憩
16:15-17:00 全体討議

募集人数 アントレプレナーおよび財務担当役員（CFO） 20名（開催最少人数 10名）
ベンチャーキャピタリスト 20名（開催最少人数 10名）

5. 費用等

費用：アントレプレナーおよび財務担当役員（CFO） 1人20万円（消費税含む）
ベンチャーキャピタリスト 1人35万円（法人会員費9万円、消費税含む）

初回開始までに全額納入をお願いします。

アントレプレナー、CFO、ベンチャーキャピタリストともに、1社当たりの参加者は2名までとします。

ベンチャーキャピタリストについては、所属企業が既に法人会員である場合は1人26万円となります。

必要書類：アントレプレナー、CFO、ベンチャーキャピタリストともに、以下3点を添えて申込をお願いいたします。

- (1) 履歴書
- (2) 参加動機（A4 1枚程度）
- (3) 事業内容がわかる会社パンフレット等

ベンチャーキャピタル実践塾の修了者には、修了証書を授与します。

神戸市灘区六甲台町 2-1

神戸大学経営学研究科第3学舎内

078-805-1623

特定非営利活動法人 現代経営学研究所(RIAM)

理事長 正 司 健 一

(神戸大学大学院経営学研究科教授)

(担当 RIAM 青池)

E-mail: 現代経営学研究所 <bi@riam.jp>

現代経営学研究所 (RIAM) の詳細は下記 URL の HP をご参照下さい。

<http://www.riam.jp/>